開発したオンデマンドラーニング型プログラム

プログラムの効果

① 事前動画の配信と対面実施をすることの効果

- 大学で学ぼうでの学習に対して見通しを持つことができる
- 関心もったことなどについて、事前に予習することができる
- 当日、自分の意見や答えをもって参加することができる
- 事前に予習をすることで、当日の対面授業での内容がよく分る
- 既有知識をもって参加することができる
- 積極的に参加することができる
- 振り返り動画で、他の人がどのような学びをしたのかが分かる

② プログラムの課題

- 動画視聴ができる Wi-Fi 等の環境が整っていない
- 動画視聴できる環境(タブレットがない 携帯が自由に使えない)が整っていない
- 動画視聴を一人ですることができない
- 視聴した人とできなかった人の学習や意欲の差が生じてしまう
- 動画の配信管理、ホームページ等の管理に費用がかかる

「動画」コンテンツのアクセス方法と「大学で学ぼう」の参加方法

1 静岡県障害者就労研究会ホームページへアクセス

https://shizuoka-dws.com/

静岡県障害者就労研究会ホームページにアクセスし、「Events 大学で学ぼう」をクリックします。

2 ホームページの生涯学習のバナーをクリック

動画コンテンツが掲載されます。
学びたい内容の画面をクリックしましょう。

3 視聴したい動画教材名をクリック

動画一覧から興味ある動画素材をクリックします。

ホームページから申し込みもできます

動画コンテンツへのアクセス及び大学で学ぼうへの参加について

○ お問い合わせ

静岡大学教育学部准教授　山元薫
メールアドレス　yamamoto.kaoru@shizuoka.ac.jp　研究室直通電話　054-238-4246

静岡県障害者就労研究会事務局　瀬戸脇正勝
メールアドレス　masakatsu.setowaki@gmail.com　FAX 054-209-2888

障害者の多様な参加を可能にする オンデマンドラーニングを活用したプログラムの開発

―生涯学習への接続・参加・継続を目指して―

本研究は文部科学省「令和 5 年度 学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」の経費を受けて研究推進をしています

静岡大学教育学部准教授　山元薫
メールアドレス yamamoto.kaoru@shizuoka.ac.jp

静岡県障害者就労研究会　瀬戸脇正勝
メールアドレス masakatsu.setowaki@gmail.com

“事業に至る背景と本事業が目指す生涯学習のコンセプト”

これまで静岡大学教育学部特別支援教育山元研究室と静岡県障害者就労研究会が協働して、知的障害者のための生涯学習「大学で学ぼう」を実施してきました。

「大学で学ぼう」は知的障害者の生涯学習として定着してきたという成果もある一方で、固定化する参加者、新規の参加者の減少、コロナ禍での対面実施の難しさ、付き添い者の確保の難しさ等、課題も顕在化してきています。

そこで、本事業が目指す生涯学習は、知的障害者が、生涯に渡って、自由に学び豊かに生きることができる機会、教材、内容を開発することを目指し、令和 4 年度より文部科学省の委託事業を受託し、令和 5 年度も引き続き事業を実施してきました。

知的障害者が自由に学ぶことができるというのは、参加する「時間」「場所」「方法」「内容」等を選択することができることと、「見通しをもって学ぶことができる」「参加して、分かった!できた!楽しい!」を学びの実感を持てることとしました。オンデマンド型を開発することで「時間」「場所」を選択することができる、オンライン型にすることで「場所」「方法」を選択することができる一方で、対面型も実施することで「友達に会いたい」「大学で学びたい」「直接会って、話したい」「一人では分からなかったけど、友達と学んだら分かった」等の要望にも応えることができると考えました。また、オンデマンド型は、複数回の視聴を可能にすることによって、分からない部分や興味関心の高い部分は何回も視聴できるようにしました。また、訪問型の大学で学ぼうを実施することで、特例子会社の社員や特別支援学校、特別支援学級の生徒に生涯学習のプログラムを実施することで、将来の学校外で開催される生涯学習への参加のきっかけづくりをすることに挑戦しました。

成果として、オンデマンドラーニングは、主体的な参加を促進し、対面授業での活性化に効果的であった。また、訪問型大学で学ぼうは、これまで知らなかった人たちに啓発することができ、働きながら学ぶ生涯学習やリカレント教育への関心を高めることができた。

大学で学ぼうの実績（令和５年度）

1 第１回（令和５年７月16日開催）

- アイスブレイク（並んでみよう）
- 講義１「SNS コミュニケーション」
- 講義２「SDGs」について学ぼう

株式会社アレミティの杉山純代（すぎやま すみよ）先生に、企業や個人の取り組みについて学びました。１年間、SDGS について学ぶため、全般的な内容について理解を深め、自分の生活に関連してどのような課題があるのか、何を目指しているのかについて理解を深めました（図１）。

図１）アイスブレイクの様子

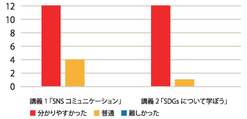
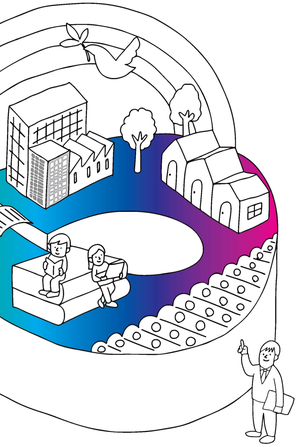


図２）第１回大学で学ぼう参加者アンケート



2 第２回（令和５年10月22日）開催

- アイスブレイク 仲間探し

参加者全員で背の順や誕生月順に並ぶことを、会話をせずにアイコンタクトやジェスチャーを使ってコミュニケーションをして挑戦しました。

図３）講義１の様子①

図４）講義１の様子②

- 講義1 身体の仕組み・姿勢について考える

澤野（さわの）氏から、身体の仕組みを骨格や筋肉の視点から講義を受けました（図３）。身体の動きには、様々な筋肉、腱、筋肉が関わっていることが分かりました。グループで、お互いに実際に動かしてみることを通して、理解が深まりました（図４）。

2 第２回（令和５年10月22日）開催

- 講義２ SGDS―水資源について―

「世界にはどのくらい飲料水として使用できる水があるのだろうか」といった問いをもち、学習を進めました。事前の動画を視聴して、自分の住んでいる地域の水資源について、また、日本や世界の取組などを調べてくる参加者がいました。授業後は、自分の生活でできることは何だろう?と、実践できることを振り返りシートに書いていました。

- 講義３ SDGS―防災について―

大雨による災害について考えました。清水区での災害経験をもとに、災害イメージをもちながら、講義を受けたり、グループワークに参加したりすることができました。

図７）講義１の様子①

図８）講義１の様子①

図５）講義１の様子①

図６）講義１の様子②

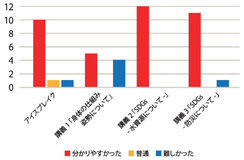


図９）第２回大学で学ぼう参加者アンケート

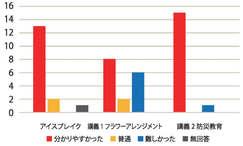


図10）第３回大学で学ぼう参加者アンケート

3 第３回 大学で学ぼう

- アイスブレイク
- 講義１ フラワーアレンジメント

先生の師範を見ながら、１本ずつ丁寧にアレンジしていきました。

- 講義２ SDGS―防災について―

第２回に続いて、災害について学びました。今回は、防災用品として何を準備すればいいのか考えました。

図11）フラワーアレンジメントの様子

図12）SDGS―防災教育―

訪問型大学で学ぼう！
特例子会社での実践（令和５年度）

1 株式会社日本軽金属オーリスでの実践

水資源について「節水」という視点から SDGS を考えました。「節水」の意味やメリットを知ることで、グループワークを通して、家庭や職場で水を使っている場面を取り上げ、さらに節水できるポイントを出し合いました。

図13）訪問型大学で学ぼうの様子

学習の効果

授業後、「節水という言葉の意味」について理解度を質問すると、「かなり当てはまる」が15人と多くが理解できたことが分かります。また、授業実施前と実施後で「家庭で節水に気を付けている」に対して、実施後は、「気を付けている」が増加したことが分かります。

このことから、成人になっても学ぶことは意識を変え行動を変える機会と成り得ることが分かります。

さらに、家庭での実際の「節水」についても、事後では多くの人が生活の様々な場面で意識して節水行動をしていることが分かります。このことから、成人になっても学ぶことは意識を変え行動を変える機会と成り得ることが分かります。

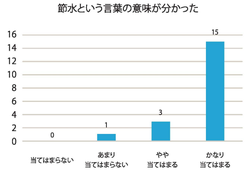


図14）「節水」という言葉の理解

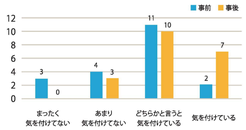


図15）家庭で節水に気を付けている

図16）家庭での実際の「節水」に関する行動

2 しすぎんハートフルでの実践

世界の水資源の実情を理解した上で、「節水」の意味とメリットをグループで協議し、家庭でできる節水について考えました。

図17）訪問型 大学で学ぼうの授業の様子

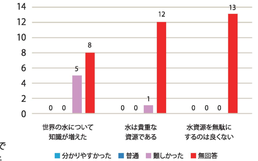


図18）授業後の水資源に関する理解

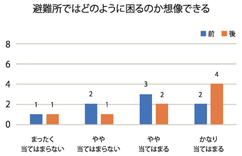
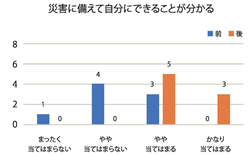
学習の効果

授業後、「世界の水について知識が増えた」「水は貴重な資源である」「水資源を無駄にするのはよくない」の質問で「かなり当てはまる」「やや当てはまる」の回答を得ることができました。こちらの会社では、学生時代に水資源について学んだ経験のある人が60%以上いたことから、授業を実施する前から息は高かったと言えるが、学んだ経験の無い人も、この授業を通して意識が高まり節水行動を増やすことができました。

3 中学校特別支援学級での実践

図19）訪問型大学で学ぼうの様子

中学校特別支援学級で、生涯学習プログラムの「防災教育」から避難所について考える訪問授業を実施した。

学習の効果

学習の成果として、避難所の生活を疑似体験することで、困ることを想像することができた。
また、災害に備えて何を準備すればいいのかを考えることができた。生涯学習プログラムを中学校特別支援学級で実施したところ、成人と同様に災害について考え、被災後の困り感を想像し、今、自分の生活で準備できることを考え、実際に行動に移すことができた。